

質問日	令和2年12月1日(火)		質問方式	分割方式			
質問順位	5	会派名	公明党	議席番号	19	氏名	丸 英之
表 題	質 問 内 容					答弁者の職名	
1 「コロナうつ」等への対策について	<p>コロナ禍の下、いわゆる「コロナうつ」への対応が重要であり、とりわけ、うつ状態からの自殺の増加が懸念されている。そこで、本市の現状を踏まえ、総合的な自殺対策が必要であると考えているが、どうか伺う。</p>					鈴木医療担当部長	
2 インフルエンザ感染予防に向けた取組と予防接種費用の助成について	<p>新型コロナウイルス感染症ワクチンの実用化が待たれる中、医療現場の負担軽減を図るため、インフルエンザワクチンの接種費用を助成して接種率を上げ、予防に重点を置き、医療現場では新型コロナウイルス感染症対応に専念させることが重要であると考えている。そこで、今シーズンのインフルエンザ感染症予防に向けた取組と費用助成についての考えを伺う。</p>					鈴木医療担当部長	
3 子宮頸がん予防について	<p>厚生労働省より「ヒトパピローマ感染症に係る定期接種の対象者への周知に関する具体的な対応等について」が令和2年10月に発出された。本市においても、対象の子女に郵送したと聞く。そこで、子宮頸がんワクチンの接種状況はどうか。また、子宮頸がん検診の状況も併せて伺う。</p>					鈴木医療担当部長	
4 住居確保給付金について	<p>住まいは生活の重要な、全世代型社会保障の基盤である。空き家等が増える一方、高齢者、障害者、低所得者、独り親家庭、外国人、刑務所出所者等の住居確保要配慮者は増え、頻発する災害による被災者への対応も急務となっている。また、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、家賃や住宅ローンの支払いに困る人が急増しており、住まいと暮らしの安心を確保する居住支援の強化は待ったなしの課題となっている。そこで、コロナ禍において全国的に生活困窮者自立支援制度における住居確保給付金の利用が爆発的に増えているが、本市における申請件数並びに支給決定件数、また、前年と比べて増加しているのか伺う。また、その状況をどのように捉えているのか伺う。</p>					山下健康福祉部長	
5 エアコン設置等補助について	<p>気候変動、温暖化の影響など様々な要因が考えられる中、今年8月17日に最高気温が41.1℃を観測し、日本一暑い街とされ、「浜松は日本一暑く、人も熱い」と横断幕を掲げた。一方、高齢者単独世帯等の低所得者は、エアコンをいまだ設置できず、熱中症などの命の危険がある。そこで、特に低所得の高齢者単独世帯などに、エアコン設置費用補助及び光熱費の負担を軽減してはと考</p>					山下健康福祉部長	

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	えるが、どうか伺う。	
6 結婚新生活支援について	<p>政府は少子化対策の柱の一つとして、結婚新生活支援事業を位置づけ、引っ越し費用や家賃を含む新居への補助を倍増する方針である。そこで、幸福度日本一をうたった本市への移住も組み合わせた魅力ある内容にし、この事業を創設すべきと考えるが伺う。</p>	鈴木こども家庭部長
7 離婚前後の親支援について	<p>子供の貧困と言われるのは、親の貧困であると考えられる。離婚に被害者がいるならば、一番の被害者は子供である。離婚後、養育費が適切に支払われないケースもあり、両親の離婚で子供の生活が不安定にならないよう、離婚前後の親を支援する制度の拡充が重要になる。そこで、養育費支払いの履行確保への支援について伺う。</p>	鈴木こども家庭部長
8 空き家対策について	<p>増え続ける空き家に関する対応、対策が追いつかず、近隣住民からも相談の声が後を絶たない。そこで、以下3点伺う。</p> <p>(1) 本市の新規事業である、空き家の解体補助の申請件数などの状況はどうか。また、その状況をどのように捉えているか伺う。</p> <p>(2) 空き家等に関する、苦情を含む要望状況を伺う。また、その状況をどのように捉えているか伺う。</p> <p>(3) 空き家等の様々な相談、対策に関して、専門家である司法書士会と連携して、解決に導く考えはないか伺う。</p>	奥家市民部長
9 犯罪被害者等支援について	<p>2004年に犯罪被害者等基本法が成立し、犯罪被害者等は個人の尊厳が重んぜられ、その尊厳にふさわしい処遇を保障される権利を有することが宣言され、犯罪被害者支援施策は一定の前進を果たした。しかしながら、犯罪被害者の多種多様なニーズに応えられるだけの整備は、いまだ十分になされているとは言い難い。そこで、被害者等支援の施策に関する基本事項等を定める「犯罪被害者等支援条例」を制定してはと考えるが、どうか伺う。</p>	奥家市民部長
10 防犯カメラ設置について	<p>静岡県警察のエスピーくん安心メールを登録しているが、本市における声かけ、露出、無断撮影など不審者情報が毎日のように発信されている中、保護者等から直接相談も受け、犯罪に巻き込まれないよう対策の一つとして防犯カメラを設置してほしいとの要望もある。地域によっては、防犯灯の設置が充足したという声も聞く。そこで、防犯灯設置事業を防犯カメラ設置事業に拡充するための設置補助要綱を策定してはと考えるが、どうか伺う。</p>	奥家市民部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>11 こころのユニバーサルデザインについて</p> <p>12 障害者スポーツの普及について</p>	<p>世界中から障害のある人も含め、パラリンピック競技大会へ集い、共生社会の実現に向けて社会の在り方が問われている。コロナ禍の中、ますます助け合う精神が重要となる。バリアフリー整備からユニバーサルデザインへ進化する中、ハード整備は目に見えるが、ソフト整備が浸透していない。そこで、本市のこころのユニバーサルデザインの普及・啓発について伺う。</p> <p>本市では、ブラジルパラリンピック選手団の受け入れなど、パラスポーツに触れ合う機会が多くなり、障害のある子供から大人まで、改めてスポーツをしてみたいと意欲が高まるのではと考える。そこで、東京パラリンピック競技大会を通して、本市における今後の障害者スポーツの普及をどのように進めるか伺う。</p>	<p>奥家市民部長</p> <p>中村文化振興担当部長</p>
<p>13 市の事業への若者の参加について</p>	<p>本格的な人口減少社会を迎える中、若者が大学等への進学、県外への就職で本市を離れるなど、若年層の転出超過の傾向が見られ、その対策が喫緊の課題となっている。本市の魅力を伝え、市政への関心を高めることが、その対策につながると考える。そこで、以下2点伺う。</p> <p>(1) 若者（高校生、大学生含む）が本市の行政に自ら関わることにより、地域の担い手となり得ると考えるが、現状の関わり方、方策について伺う。</p> <p>(2) 市外へ転出した大学生を含む若者に対し、市の事業へ参加しやすくすることによって、本市への就業、居住へつなげる考えはないか伺う。</p>	<p>内藤企画調整部長</p>
<p>14 地方創生臨時交付金活用を含む事業展開について</p>	<p>新型コロナウイルス地方創生臨時交付金は、事業終了後に、実施状況及びその効果の公表、報告を求めている。事業は続いているものもあるが、昨今、第3波が来ているとの見方もある。そこで、今後の対策も含め、特に以下3事業についての現況を伺う。</p> <p>(1) 3密対策事業者支援事業の申請、実施状況について伺う。また、その状況をどのように捉えているか伺う。</p> <p>(2) Pay Payと連携した中小店舗支援事業の効果について伺う。また、今後どのような事業につなげていくのか、考えを伺う。</p> <p>(3) 新しい生活様式支援天竜材活用事業の申請、実施状況について伺う。また、その状況をどのように捉えているか。さらに、今後の販路拡大をどのように考えているか伺う。</p>	<p>石坂観光・ブランド振興担当部長</p> <p>〃</p> <p>山下農林水産担当部長</p>